

= 支部だより =

北海道支部

2009 年度地域講演会の報告

北海道支部では一般市民にむけた科学技術の振興と啓蒙活動を目的として、北海道各地における講演会を開催しています。2009 年度は帯広市において、地域講演会「雪と氷のサイエンス ―凍土・流水・積雪が語る北海道の気候変動―」を開催しました。

テーマ：雪と氷のサイエンス ―凍土・流水・積雪が語る北海道の気候変動―

主催：(社)日本雪氷学会・北海道支部

共催：十勝雪氷エネルギー利用促進協議会

後援：帯広市教育委員会、帯広畜産大学、日本気象協会北海道支社帯広支店、NHK 帯広放送局、十勝毎日新聞社、北海道新聞社

日時：2009 年 12 月 19 日 (土) 13:30-16:30

場所：とかちプラザ 1Fd 大集会室

参加者：52 名

プログラム：

・講演

―自然積雪下の土壌凍結・融解の年次変動と温暖化の影響は？―

帯広畜産大学 地域環境学研究部門 土谷富士夫
―オホーツク海・北海道沿岸の気温と流水勢力の長期変動

北海道立オホーツク流水科学センター 青田昌秋
―変わりゆく北海道の冬―気象データからの考察―

北海道大学大学院環境科学院 中村一樹

・パネルディスカッション

―コーディネーター：武田一夫

―パネリスト：土谷富士夫、青田昌秋、中村一樹

開催日となった 12 月 19 日は、帯広において連日マイナス 20℃ 以下が記録される寒波到来の真っ直中。時を得たテーマに 50 名を超える参加者が集まりました。大学生と見受けられる若者から年配の方まで、低温で知られるここ帯広では雪

氷への関心が高いようです。

最初の講演者は帯広畜産大学の土谷富士夫氏。長年にわたって継続されている土壌凍結観測をもとに、凍土形成のメカニズムと近年の気候変化がわかりやすく説明されました。凍土に果たす積雪の重要性をもとにして、「土を凍らせなければ、初冬の雪かきはほどほどに、春が近づいたら念入りに」と会場へアドバイス。凍土を積極的に利用した低温貯蔵施設も紹介されました。

続いて道立オホーツク流水科学センターの青田昌秋氏が、100 年を超える流水観測の結果を紹介。過去 100 年における気温の上昇と流水勢力の減少



写真 1 土谷氏による講演



写真 2 講演に聴き入る参加者

が示されました。ユニークな自己紹介に始まって、迫力ある写真を交えたユニークな講演からは青田氏の人柄が良く伝わってきます。会場からはたくさんの笑い声がこぼれました。

最後の講演は北海道大学の中村一樹氏による「変わりゆく北海道の冬」。長年北海道の気象予報に携わってきた同氏はその経験と知識に基づいて、道内各地域における近年の気候変化を説得力のあるデータで解説します。地域における気温と降雪量の変化は非常に複雑で、地球規模の気候変動とはまた違った面白さと複雑さがあります。今後の気温上昇で北海道の降雪は増えるとの将来予測が示されました。

引き続き行われたパネルディスカッションでは、帯広畜産大学武田一夫氏の司会で講師3名によるカジュアルな討論が行われました。寒地土木研究所の松澤勝氏からは雪氷道路災害と気候変動との関わりも紹介され、より生活に密着したテーマが話題の中心に。帯広といえば北海道でも屈指の農業地域。気候の変化が農業に及ぼす影響なども議論されました。気温が上がるのであれば、少し南に住む人たちの知恵を借りよう。そんな中村



写真 3 講演者らによるパネルディスカッション

氏のコメントに象徴されるように、気候変動を前向きに捉えようという気持ちだが、プログラムを終えた会場から伝わってきました。

本講演会を開催するにあたり、共催、後援を賜った十勝雪氷エネルギー利用促進協議会、帯広市教育委員会、帯広畜産大学、日本気象協会北海道支社帯広支店、NHK 帯広放送局、十勝毎日新聞社、北海道新聞社の各位に感謝申し上げます。

(北海道支部理事 杉山 慎 記)

(2009年12月25日受付)